

おだやかに 流るる中流の最上川

小さき渦の生まれて消えて

(R)

## 水と緑と文化の町・・・

大石田の水は美味しいといえます。ここは、山々に囲まれ、冬は二メートル余りの積雪になる雪深い土地柄です。湧水も多く、来迎寺の導者清水、駒籠のイカゴの清水、次年子のこわ清水が有名です。以前、井出の玉泉は玉のような清水が一文(約三メートル)の高さまで噴き上げていたそうで、今はスイカ選果場の近く、湿地帯が広がっています。

また、町の中央を流れる最上川の枝川はたくさんあり、東からは、五十沢川、臈気川、大石田川、高桑(堰)川、仲通り川、丹生川、野尻川、西からは、来迎寺川、金川、小平川、川前川、次年子川が最上川に注ぎます。昔は、井出の城跡の北側、下の方から上の方に筋川が流れ、その速く透き通った流水は、夏は冷たく冬温かいものでした。筋川はもうありませんが、川跡の一部と筋川橋が残っています。

大石田の蕎麦や米が美味しいのは、ミネラルたっぷりのお水のおかげです。水に含んだ山の恵は、里の人々に多くの収穫を与えます。山の自然を敬い、感謝する心を忘れない先人達が、大石田に暮らしてきました。

川や自然に魅せられて松尾芭蕉・正岡子規・齋藤茂吉・金山平三・小松均、多くの文化人が大石田を訪れ、数々の作品を残しました。・・・

### 鴻雁来る(がんきたる)

10月8日～12日頃

ついこの間まで黄金色に実っていた稲穂が残り少なくなり、コンバインの音も少しずつ消えて行きます。さつまいも、里いもの収穫が始まり、山形名物いも煮会をあちらこちらの川原で見つけます。また、家の庭先では、豆を干したり、いも等を干したりと秋仕舞い(あきずまい)が始まっています。(き)

### 菊花開く(きっかひらく)

10月13日～17日頃

菊の字は、散らばった米を一ヶ所に集めるという意味で、花卉を米に見立てたとか。スーパーで買った「もってのほか」は、花卉が摘まれた物でした。一つづつ散らすのも楽しみなのに。優雅に菊の被綿を楽しみたいものですが、菊のゆで汁で顔を洗うのは手軽にできそうで、肌も綺麗になりそうです。(M)

### 蟋蟀戸に在り(きりぎりすとにあり)

10月18日～22日頃

我が家には、太いイチジクの木がある。しかし半数の実は鳥に食われる。今年は松の雪吊りを真似てみた。縄のかわりに黄色の水糸を用いる。この効果はすばらしく、まず鳥が寄りつかない。鳥は羽が糸に絡まるのを極度に嫌うのである。(海藤忠男)



井出子育て地蔵尊祭にて 2014.10.9

読書会だより⑤

## 大石田の寒露のころ

七十二候より

大石田町立図書館

旧の九月十六日は井出の子育て地蔵尊の秋祭りです。お地蔵様にお参りをして、安産や子どもたちの健康と成長を願います。満月になるこの日は、少し肌寒い風が吹きますが、夜祭りには町内外から常連の子どもたちや妊婦さん、家族連れなどたくさんの方が集まってきました。お護符の赤飯を手に載せてもらえるのも楽しみです。